

公同礼拝

2024年11月17日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 高橋和人

奏楽 大澤葉子

前 奏

招 詞 イザヤ書 12章2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

出エジプト記 30章22～30節(旧145)

マタイによる福音書

26章1～13節(新51)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 7

説 教 「メシアの香り」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 391

献 金

頌 栄 543

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

11月の祈り

主にある収穫を覚え、見えないものに向けられている主の守りと導きを知ることができるように。

時が良くても悪くても、礼拝と御言葉の恵みを確かめ、そこに生きることができるように。

教会に連なる子どもたちが祝福され、心も体も健やかな成長が与えられるように。

高齢や一人暮らしの兄弟姉妹が支えられ、互いに覚え合い、祈り合うことができるように。

紛争の地に平和がもたらされるよう祈りが力づけられるように。

今日の祈り

日々与えられている主の恵みを覚え、感謝をもって歩むことができるように。

主の十字架を見上げ、贖いと赦しの救いによって主と共に生きる幸いに歩むことができるように。

体調を崩し、弱っている兄弟姉妹のために。
幼稚園の歩みが力づけられ支えられるように。

「メシアの香り」 高橋和人

マタイによる福音書 26章1～13節

聖書は主イエスが「これらの言葉をすべて語り終え」、過ぎ越しの祭りの時に「人の子は、十字架に付けられるために引き渡される」と言われた。主は語るべきことを完成され、ご自分が十字架に渡されると念を押された。二日後に迫っていた。敵対者は計略を用いる。

主は思い皮膚病の人シモンの家にいた。主の選ばれた場所だ。食事の時であった。一人の女が近づききわめて高価な香油の入った石膏の壺をもって近寄り、イエスの頭に香油を注ぎかけた。

名前も知られない、ひとりの女性、しかし彼女の

姿を主イエスは「世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられるところでは、この人のしたことも記念としてかたりつたえられる」と言われた。

静かで驚くべき情景だ。誰も予想してはいなかった。部屋一杯に広がる高貴な香り。主は受け入れておられる。

口を開いたのは弟子たち。憤慨し、「なぜ、こんな無駄使いをするのか。高く売って、貧しい人々に施すことができたのに」と非難する。声高な正しい主張に聞こえる。主は「なぜこの人を困らせるのか」と言われる。その正しさの背後を問われる。

愛を語るのに愛がないことがある。愛の伴わない愛の主張がある。愛のない自分が現れる。

主は「良いことをしてくれた」と言われる。女は主を見つめ、ふさわしい良いことをした。誰かにではなく、その方に精一杯であった。

主は「この人はわたしの体に香油を注いで、わたしを葬る準備をしてくれた」と言われる。この女性の行いを主が葬りの備えとして用いられる。

それは神が御子によってなされたことも、途方もない無駄遣いにあたることになるからだ。神が罪人のためにその代価として、ご自分のひとり子を十字架の死に渡される。罪を罪として裁かれるのが正しいことであり、そうされれば「良いこと」であるのに、そうされなかった。

神もまた人に法外なことをされた、罪人の罪の赦しのために愛する子をお渡しになった。世を愛されるゆえに。それこそ無駄遣いである。

香油が注がれるのはメシア・キリストのしるし。主イエスはメシア・キリストであることは十字架の死によって果たされた。教会はこのメシアの香りを知らされている(エフェソ5:2)。